

(3) 身近な水環境の全国一斉調査

1) 身近な水環境の全国一斉調査とは

河川や水辺など身近な水環境の保全や再生に関する市民の意識が高まる中、1980年代半ばから、市民や学校の子供たちによる身近な川の一斉調査が多摩川・荒川の流域や霞ヶ浦・琵琶湖の流域など全国各地で行われてきた。しかし、当初は調査の方法、項目の不統一、測定精度が保証されないなどの問題点があり、市民調査の有効活用は難しい状況であった。

統一的な調査マニュアルが作成され、これに基づいた一斉調査として「身近な水環境の全国一斉調査」が実施されるようになったのは平成16年からであり、その後毎年、市民団体等が協働で全国の河川や水辺など身近な水環境の水質を一斉に調査し、「全国水環境マップ」としてとりまとめた結果を公表している。

2) 調査のまとめ

令和元年の調査の概要は以下のとおりである。

表-34 身近な水環境の全国一斉調査の概要

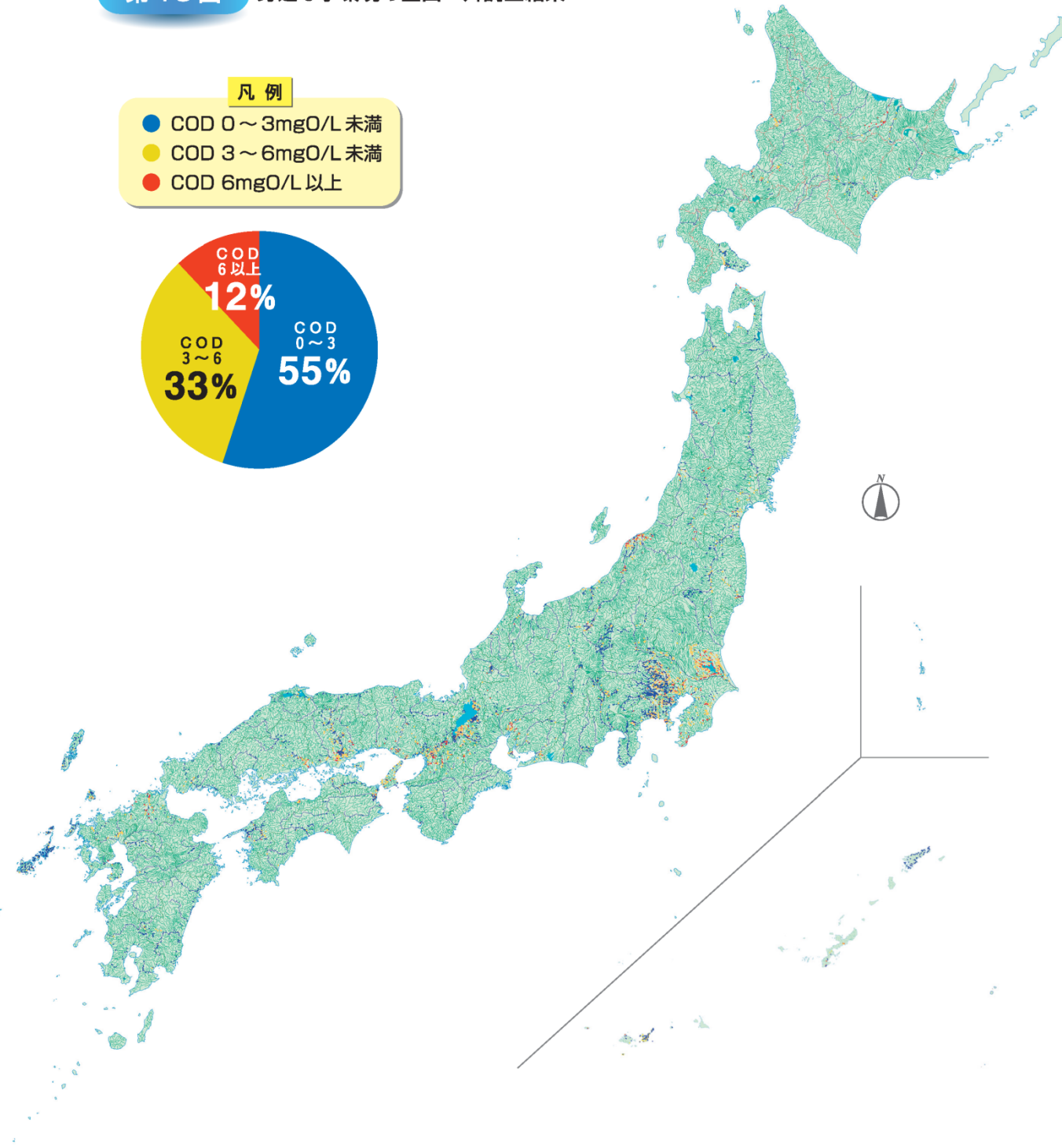
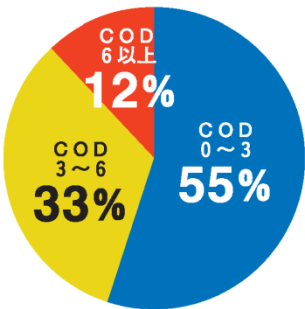
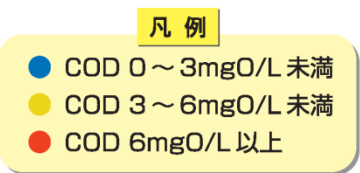
	全国統一日に 実施された調査	国内で実施された 全ての調査	備考
調査日	令和元年6月2日(日)	令和元5月15日 ～7月7日	—
参加団体数	367団体 (個人参加含む)	697団体	平成30年は 730団体
調査地点数	2,448地点	6,241地点	平成30年は 6,920地点

令和元年調査ではCODの水質結果では、全国のデータの割合がCOD 0～3mg/L未満が55%、3～6mg/L未満が33%、6mg/L以上が12%となり、これまでの調査結果の中でもっともよい結果となった。近年は定点調査地点の水がないという調査票への記載があることがあり、令和元年調査においても約71地点で報告があった。このような報告も河川水量の変化の記録として資するものであるので貴重な記録と言える。

令和元年の全国水環境マップを図-30に示す。

2019全国水環境マップ

第 16 回 身近な水環境の全国一斉調査結果



2004全国水環境マップ

第 1 回 身近な水環境の全国一斉調査結果
水質調査の結果と分布

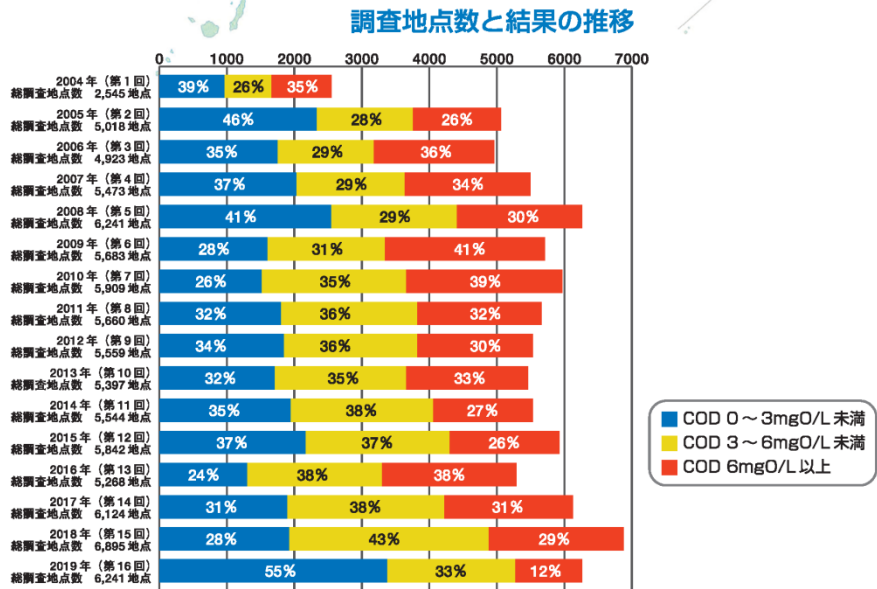
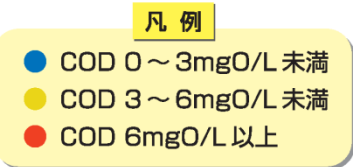


図-30 全国水環境マップ